

第165話 当町の庚申塔 その2 中山町 歴史散策

庚申塔（青面金剛を含む）は、一尊で諸願成就の仏です。

当町各地に石碑があり、往時からの信仰をうかがわせるものの、ほとんどが集落の外にあり、屋敷神となることもなかったのは不思議なことでした。伊勢参拝の際、大阪の青面金剛本社に参詣した記録もこの町にはありません。

それでも、当町には庚申塔、青面金剛信仰を物語る資料が多いのは事実であり、平成4年6月には、柳沢の野口氏宅の西の土堤で石像が発見されました。元々ここにあったものではないらしいのですが、近くの人々によって祀られてきました。長崎の村山郷氏、土橋の佐東一男氏らによって調査された結果、地元では「子育地藏」として崇拝され、春祭りも開催されていたようです。発見された屋根型の笠石、宝珠、四角の土台石などから石像を組み合わせてみると、髪は火焰の形が残っており面相は憤怒の形相で、六双の手は法輪、弓、矢、剣などを持つ



ていました。それは、2本の足で立ち、邪鬼を踏みしめてはいないものの、盤石座に乗っていました。

その後、この石像について、建立年は、寛延4年（辛未）10月27日で、願主は不明。立派な「青面金剛」で、延命長寿、蓄財満腹、病氣平癒などの諸願を祈願した人の建立であることがわかりました（中山町郷土研究会誌「平成6・7年号より」）。

【用語の説明】

盤石座：岩の形をあらわした、須弥山を象徴化した台座。おもに不動明王や十二神将など、顔に怒りをたたえた仏像が乗る。

※引用 中山町史 中巻

第10章1節 庶民と信仰

私たち地域おこし協力隊です！ No.32



新年あけましておめでとうございます。地域おこし協力隊の伊藤です。皆さんのおかげで今年も無事に新しい年を迎えることができました。

私が中山町に着任させていただいて、もうすぐ1年が経過します。この1年を振



貴重な資料を大切に収納

り返ってみると、さまざまなことがありました。その中で、最も印象に残っていることは、九左衛門・惣右衛門に関わる方々との出会いです。地域おこし協力隊として、中山町の観光振興に携わらせていただいている中で素晴らしい方々との出会いが、私にとっては「本当に中山町の協力隊で良かった！」と感じる瞬間でした。

今年の目標としては、昨年よりももっと具体的な活動を展開できるように努めていきたいと考えています。皆さん、何かこうしたほうが良いというアイデアがありましたら、お気軽に教えていただければ幸いです。本年も何卒よろしく申し上げます。

●協力隊への問い合わせ先● メール：nakayamanonaka@gmail.com 事務所：中央公民館2階